

レポーター：学芸員の岩永さんです。よろしくお願いします。

学芸員：よろしくお願いします。

レポーター：こちらの作品はどういった作品なんですか。

学芸員：野々村仁清という江戸時代のはじめに京都にいた焼き物をつくる陶工なんですけど、その人の作品の色絵吉野山図茶壺という作品なんです。

レポーター：どういった特徴があるんでしょうか。

学芸員：これはその器の中にお茶の葉っぱをいれるものなんですけど、色絵吉野山図茶壺という名前の通り、桜の名所で有名な吉野山の風景を描いたものなんです。ちらほらとの桜の花が咲いているのが正面に描かれていますけども、壺ですので、ぐるっとずっと絵柄があるんですけど、だんだん絵柄が後ろに行くにしたがって、桜の花が満開になっていくというような、四方八方から見て楽しんでいただける作品です。

レポーター：確かにその側面の方になると満開の桜がたくさんみられますよね。

学芸員：はなやかですね。もともとこうした形はあの、こういう輸入の陶器で非常に渋い褐色のものを形を真似て作っているんですけど、日本で、京都で、同じ形をかりてつくっていても、非常に美しい色彩をつけて焼き上げているというところが、あの、日本の仁清の茶器の特徴かと思います。京焼という華やかな京都でつくられた陶磁器がありますけど、そのスタートにあたるようになりますね。